

イギリスの音楽科ナショナル・カリキュラムと Model Music Curriculum(2021)

—ミュージシャンシップを育む幼保小の音楽的発達の観点—

小松原 祥子

イギリスでは1992年に音楽科ナショナル・カリキュラム(MNC)が導入され、1995年改、1999年、2013年に改訂されている。95年版では楽曲等の例示が外され、簡略化し、99年版では大きな変革はない。2013年版では到達目標(Attainment Targets)は各キーステージごとに示され、99年版までのレベル分けが示されず、さらに簡略化し、かつ演奏・歌唱・作曲・聴取及び評価を包括して音楽理解を育む内容となっている。

1999年改訂版の「学習プログラム Programme of study」では「演奏技能」「作曲技能」「評価(appraising)技能」「④聴取、及び知識と理解の応用」(QCA,1999)の4つで構成されている。

2013年版キーステージ1(5-7歳)及び2(7-11歳)では領域のカテゴリー分けは示されず、全体の「学習の目的」として「音楽家(musicians)としての才能を伸ばす」というミュージシャンシップ(musicianship)の概念が示され、「音楽に対する批判的な関わり方を身に付け、作曲し、最高の音楽のカノンを識別して聴く」ことができるようになることが推奨されている。作曲・即興を通してミュージシャンシップを育む概念は2024年改訂版の音楽教師用指導書の理念にも掲載されており、2013年版MNCの基軸となる概念と考えられる。

ここでの「作曲」は高度な作品を創ることを目指すのではなく、音楽の要素を用いて音楽を創ることによる過程で自ら記譜するため、読譜のための指導を受けることなく読譜できるようになり、様々な音楽を識別して聴くことができるようになり、演奏や歌唱と関わらせることによってミュージシャンシップを高めるという効果をねらっている。

MNCは2013年改訂以降大幅な改定は行われていないが、法的拘束力を持たないモデル音楽カリキュラム *Model Music Curriculum:Key Stages 1 to 3, Non-statutory guidance for the National Curriculum in England (Department for Education, 2021)* =MMCが教育省(DfE)より発行された。MMCは、「音楽教育のための国家計画(National Plan for Music Education)」を補完するものであり、乳幼児期基礎段階(EYFS)を基盤として初等学校の音楽専科及び専科でない教師を対象としているため、幼保小接続を見通したカリキュラムと考えられる。第一学年では歌唱・聴取・作曲・ミュージシャンシップ、第二学年以降は歌唱・聴取・作曲(作曲・即興)・演奏の領域別に事例が示されている。

従って本発表ではEYFS及びカリキュラム・ガイダンスから2013年版MNC及びMMCの継続・発展性を分析し、表現(演奏・歌唱・作曲)と聴取を包括し、ミュージシャンシップを育む幼保小接続の音楽的発達の捉え方を明らかにする。